

川村雅則ゼミⅠ・Ⅱ

参加学生数16人



川村 雅則

経済学科
准教授

① 学生アルバイトの実態

② 若者の雇用・労働と大学の就職支援

研修地：札幌市

【 研修目的 】

今年は、①例年同様に、北海学園生のアルバイト実態を調査したほか、②若者の雇用・労働と大学の就職支援の現状を調べてみた。

前者では、「ブラックバイト」という言葉に象徴されるとおり、学生アルバイトの雇われ方・働かせられ方のひどさが社会問題として浮上してきたいま、あらためてその実態を調べ、必要な対策の検討を目指した。

後者では、まず若者の雇用・労働実態を学んだ。学べば学ぶ（知れば知る）ほど、労働市場へ若者を送り出す大学など教育機関が、学生が在学中に果たすべき役割があるのではないか、という思いが強くなった。そこで、大学の就職支援の現状を学び、かつ、問題を提起してみた。

両研究とも、労働組合のご協力を得た。労組を講師に招いたり、逆に、労組の事務所をゼミで訪問して、学習を重ねた。御礼を申し上げる。

■ 研修地・日程

研修先・協力先

- 札幌地域労組（札幌中小労連・地域労組）
- 道労連（北海道労働組合総連合）

前期

- 若者の雇用・労働や労働法に関する学習
- 並行して、学生のアルバイト調査を開始
- ゼミで労働組合を講師にお招きしたり、労働組合主催の学習会に参加して学ぶ

夏期休業中

- ゼミⅠは、労働組合を訪問して学習
- ゼミⅡは、福岡大学で12月に開催予定のインターゼミナール（インゼミ）大会に向けた準備を開始

後期

- ゼミⅠは、学生アルバイト調査結果のとりまとめ作業。12月に『学生アルバイト白書2014』が完成
- ゼミⅡは、研究テーマ（「若者の雇用・労働と大学の就職支援」）にそって、労働組合や大学のキャリア支援センターを訪問し、聞き取り調査（10月）。インゼミ大会に参加して、若者の雇用問題とその解決策について、中央大学のゼミと討論を行う（12月）

【 総括 】

①学生アルバイト調査と、調査結果にもとづく『白書』づくりは、今年で4年目になる。キャンパスライフのうち少なからぬ部分がアルバイト生活に費やされているが、相変わらず、バイト先でのワークルールの軽視が目立つ。不払い労働にはじまり、仕事上のミスへのペナルティ、商品の買い取り・ノルマ、急な呼び出し・シフトの変更、パワハラ・セクハラなどなどである。労働法を学んだだけでは事態の解決は難しい。そう考え、労働組合なら問題をどう解決するか学んだ。詳細は『白書』を参照。→ <http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/index> からダウンロード可能

②若者の雇用・労働実態について、テキストのほか、労働組合からのリアルなお話し——例えば過労死ラインを超えるような働き方・働かせられ方など、学生には驚きの実態——で学んだ。同時に、労働



学生研修記



大竹 健太

経済学科2年
室蘭栄高校出身

坂田 亮

経済学科2年
石狩南高校出身

学生アルバイトの危機

私たちは、学生アルバイトの現状について調査をして、その対策・改善策を検討してきました。調査からは、「ブラックアルバイト」と呼ばれるような働き方をしている学生が少なくないことが明らかになったのですが、労働法を学んで、「これが対策だ！」と言われても正直なかなか実感が湧きませんでした。そこで、労働組合を訪問し、まずは自分たちが調べたり学習してきたことを発表し、その上で、労働組合なら問題をどう解決するか教わりました。労働組合への労働相談でも、サービス残業や不当な解雇、パワハラなどに苦しむ若者が多く、しかも、労働法についての知識不足や仕方がないというあきらめで働き続けている人が多いそうです。学生バイトにも共通するこうした現状の対策を専門家とともに考えられたことはとても貴重な経験になりました。

「ブラックバイト」に直面する学生

現在「ブラックバイト」が社会問題になっています。私たちはそうした、学生のアルバイトについての調査を行ってきました。

まず、本や新聞などで、ブラック企業など若者の雇用・労働の現状や労働法を学びました。その上で、北海学園生に、アルバイトの実態の聞き取りを行い、いろいろ明らかになった問題に、どう対応したらよいのかをゼミ内で何度も繰り返し考えてきました。夏休みには、労働組合の事務所を訪問して、専門家の「目線」でのご意見をいただきました。

調査では、賃金未払いやシフトの一方的な変更などいろいろ問題が明らかになりました。多くの学生は問題にどう対応すればよいのかわからずに働いていると思います。「ブラックバイト」に負けられないためにも、一人でも多くの学生に、私たちの作成した『アルバイト白書』を読んで欲しいと思います。



1



2



3



川村ゼミI (左から2人目は講師の札幌地域労組 鈴木一氏)



川村ゼミII



インゼミ大会、今年は福岡大学へ乗り込みました



インゼミ前夜、宿泊先で作戦会議を



それでもインゼミ当日は四苦八苦



団結剣を伝授に労組が来校



労働組合のリアルを受講

写真キャプション ①「あたりまえ」を変えよう！道労連 出口憲次氏の熱い講義。② 労組ってなんだ？2年生は初めての経験。③ 労組主催の学習会に参加。懇親会も。④ 解雇ルールを学んでいます。⑤ 白書作成過程で苦勞しています。⑥ 学生だけで組合事務所を訪問。⑦ どんな労働相談が多いんですか？⑧ 労組事務所にて記念撮影。



者（相談者）の側に、労働法の知識や問題への「構え」が十分でないことが、事態を悪化させてしまっていることを学んだ。若者を送り出す私たち教育機関にも課題があるのではないかと考え、大学のキャリアセンターを訪れ、学生の就職活動や就職支援の現状を教わった。

調査では、センターで行われている各種の支援策・内容のほか、学生に対する職員の親身な対応を学んだ。だが同時に、内定率だけでは見えてこない就職未決定者（無業者）の存在や、労働トラブルへの対応など就職後を見据えた支援については必ずしも十分ではないといった課題が明らかになった。これらは全学的あるいは個々の教育機関を超えた課題でもある。

以上の調査結果を、論文にまとめ、12月6・7日に福岡大学で開催されたインゼミ大会に参加。中央大学のゼミと、若者の雇用問題とその解決策について、討論を行った。

学生研修記

河端 由実
経済学科3年
札幌月寒高校出身



能登屋 純
経済学科3年
札幌光星高校出身



「インゼミ、討論の末に」

私たちのゼミでは、12月に福岡大学で開催された日本学生経済ゼミナール大会に向けて、勉強を重ねてきました。具体的には、労働組合と大学のキャリア支援センターからの聞き取り調査を行い、若者が直面している雇用トラブルやその解決法に加え、大学の就職支援の現状や課題を学んできました。これらの調査結果や先行研究をもとに論文を作成して、インゼミ大会で中央大学のゼミ生と討論し、このテーマについての理解を深め、視野を広げました。

私たちは論文で、ワークルールや労働問題の解決事例などを在学中に学ぶような機会をつくるのが重要だという結論を出しました。でも今回の討論で、学校の支援だけではなく国全体の政策にも目を向けなくてはならないことがわかりました。討論では様々なことに気付かされ自分たちの勉強不足を痛感しました。でもとても貴重な時間を過ごせたと思います。

「若者の雇用と就職支援の現状」

近年、非正規雇用者の増加やブラック企業問題など、若者の雇用における問題が深刻化しています。そこで私たちのゼミでは、労働組合と北海学園大学のキャリア支援センターに聞き取り調査を行って、その結果をまとめました。

労働組合への聞き取りでは、若者からの労働相談が多いことや、相談内容も、残業代未払いや労働契約に反した問題など様々であることを教わりました。問題解決にはやはり1人ではだめで、大勢で団結権を行使することが不可欠であると感じました。

キャリア支援センターでは、各種のセミナーを開催したり、求人の紹介やインターンシッププログラムの実施など、様々な支援が行われていることを知りました。自分の大学のことながらこうした機関・支援メニューの存在を知りませんでした。納得した人生を送って欲しい、という思いで学生を支援している、という職員の方のお話しが印象的でした。

